第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく病院整備計画の整備計画報告書

1 医療機関名: 医療法人豊仁会三井病院

2 所在地 (開設予定地): 埼玉県川越市連雀町 19番地 3

3 整備する病床の機能・数

医療機能*	病床機能報 告区分	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数
回復期機能 回復期 一般		地域包括ケア入院医療管理料 4	50 床	
計				50 床

*回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

【変更前】 整備計画病床_______ 70 床

医療機能*	病床機能報 告区分	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数
回復期機能	回復期	一般	回復期リハビリテーション病棟 入院料 6	20 床
回復期機能	回復期	一般	地域包括ケア入院医療管理料 4	50 床
計				70 床

(※客観的データを用いた根拠(例:受入患者数×平均在院日数÷365)を記載してください。)

受入患者数 (80+300+200+200) × 30 日÷365 日=64.1

現在そして将来のニーズを踏まえますと約65床となります。

(近隣の地域包括ケア病棟の平均在院日数を調査したところ平均30日であり、この日数をもとに計画数を算出致しました。)

地域包括ケア病床を必要としている根拠

地域包括病棟の役割は、高齢化社会における在宅や介護施設で療養している患者の急性憎悪を受け入れる事であり、川越市においてはより重要になってきております。川越市の人口推計によれば、65歳以上の高齢者の人口は2020年には約93702人(26.7%)で2025年には約95682人(27.6%)で2020年と比較すると約1980人の増加、2040年には約107196人(33.3%)で2020年と比較すると13494人の増加予想になっています。当院としてもこれらの数字をふまえて介護保険施設との連携を強化しながら地域医療に取り組んでいきたいと考えております。

当院は現在病床が恒常的に不足しており、地域において今後も増加する救急車、医療機関や介護施設からの紹介、そして在宅医療からの受け入れを担うために多機能病床 50 床が必要です。

根拠①(救急車の受け入れ)

平成 29 年の川越管内における救急車年間出場件数は約 18、000 件であり、以後も着実に増加しています。それに伴い当院の救急車の受け入れ件数も年々増加し、平成 28 年度の 1、900 件から平成 30 年度には 2、500 件と年平均約 300 件の増加となっています。当院は 2 次救急医療機関として救急車を断らないという方針であり、これまでの実績からどんなに低く見積もっても年間 100 台、5 年後には約 500 件の増加の達成は十分に可能であり、その数字で計算するとそれに伴う入院必要患者数の増加が見込まれています。現在当院の急性期病床利用率は年平均 97.3%とほぼ満床状態が続いており、地域包括ケア病棟の設置ができれば、今後も確実に増加する高齢者救急をはじめとしたサブアキュート患者の受け入れを行う事ができます。(増加分 500 件のうち入院比率は約 40%、約 200 件。このうち地域包括病棟に入院の割合は約 35%で、5 年後には約 500 件の救急車受け入れ増加により、当院の実績では救急からの地域包括病棟への入院は約 80 件が見込まれます。

根拠② (医療機関との連携)

ポストアキュートも含め他の医療機関からの入院紹介依頼数は年間で現在約600件となっていますが満床のことも多く、すべての患者様の受け入れができておらず実情は約400件の受け入れにとどまっております。地域包括ケア病棟を加えて幅広く受け入れができれば地域の医療機関からのご要望にお応えできていない200件の受け入れを見込まれるほか、5年後には、約300件に増えることを見込んでいます。

根拠③(在宅医療との連携)

当院は現在 300 件ほどの在宅医療を行っています。病態悪化時入院が必要と判断した 患者数は昨年、100 件でしたが、満床の為に年間 60 名ほどの入院受け入れとなって います。地域包括ケア病棟の増床により家族のためのレスパイト入院の受け入れも行 うことができるようになり、これまで受け入れられなかった約 40 件も受け入れられ るようになり、5 年後の将来増加分約 200 件(1 年当たりおおよそ 30 件から 40 件の 増加)増加の受け入れを見込んでいます。

根拠④ (介護施設との連携)

救急車を介さない介護施設からの入院依頼についても年々増加傾向にあり昨年度は 50 件の実績がありました。今後も各介護施設との提携をより深めて特養、ショート、 有料老人ホームおよびディサービスなどを利用される高齢者の入院治療の受け皿と なり、年間入院受け入れ患者増加数を約 40 件以上と見込んでおり、5 年後には年間約 200 件の受け入れ増加計画を見込んでいます。

4 スケジュール

	項目	完了(予定)年月
1	開設(変更)許可(医療法)	2020年 4月
2	建築(着工)	2021年 2月
3	建築(竣工)	2022年 6月
4	医療従事者の確保	2021年 8月
5	使用許可 (医療法)	2022年 7月
6	開設(増床)	2022年 9月

5 整備方針、目標

- ○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能
- 1、救急車及び救急患者の積極的な受け入れ(救急車を断らない方針)
- 2、在宅医療の積極的な取り組み(6月より在宅療養支援病院となり 365日 24時間体制で訪問看護または訪問診療などの在宅医療をより一層充実する計画です)
- 3、地域の医療機関との機能別の医療連携強化
- 二次救急としての機能を十分に発揮して、三次救急からの治療後の受け入れを行います。
- 4、2019 年 4 月より連携室としてソーシャルワーカー、退院支援看護師、訪問診療チーム、訪問 看護チーム、居宅介護支援事業チームが情報共有しながら患者様とご家族にあった在宅支援活動 を行っています。
- 5、介護施設からの特に夜間の救急依頼があった場合は積極的に受け入れを行い、地域との 連携をはかっていきます。

○新たに担う役割

1、急性期治療を終了された不安のある患者様に対して在宅復帰に向けて診療看護を行い、高齢者の方への医療に取り組む。

(地域の高齢者の方の医療の受け入れ)

2、当院では退院後も切れ目の無いフォローを心がけており、外来リハ、もしくは訪問リハビリにて対応している。外来リハビリにおいては約40%の患者様を退院後より継続してフォローさせて頂いており、更には訪問リハビリも立ち上げた平成27年度を基準にすると平成30年度では約13倍の年間3086件まで増加。幅広い疾患の対象者様に幅広くサービスを提供できる環境を整えている。

○将来の方向性

- 1、地域からの要請に十分に対応するために、急性期及び地域包括ケア病棟と医療の機能を分けて患者対応をおこなう。
- ○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等
- 1、満床状態が恒常的にあるため救急車及び救急患者、急性期患者の受け入れが十分にできていません。さらに地域から要請がある急性期の治療が終了している高齢者の在宅復帰に向けた入院受け入れが十分にできていません。地位包括ケア病棟を開設することによりまして、患者様及びご家族に安心して治療を受けていただけるように努めていきます。

増床病棟】(※有床診療所についても準じて記載してください。)

病棟名	病床数	病床機能報	平均在院日数	病床利用率
		告区分		
	50 床	回復期		
地域包括ケア病棟	一般/療養	入院基本料•	特	
		定入院料		

診療科

内科、外科、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、整形外科 脳神経外科、泌尿器科、肛門科、リハビリテーション科、 乳腺外科、乳腺腫瘍内科、乳腺腫瘍外科、消化器外科 腫瘍内科、血管外科、婦人科、

患者の受入見込み

(※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)

【増床前】1年間実績	【増床後】1年間実績(平均在院日数 30 日			
地域包括ケア病棟の実績がない為、未記入	試算)			
と なります。	<救急車/地域包括病棟対象者>			
	自宅 150件			
	<他医療機関>			
	埼玉医科大学医療センター	70 件 8.2%		
	川越インタークリニック	30件 3.7%		
	いしがみ整形外科	30件 3.7%		
	熊谷クリニック	25件 2.9%		
	柴野医院	25件 2.9%		
	関本記念病院	20件 2.3%		

埼玉病院	20 件	2.3%
猪熊外科胃腸科	20 件	2.3%
Ai Clinic	20件	2.3%
長澤クリニック	15件	1.7%
川越同仁会病院	15件	1.7%
山口病院	10件	1.2%
<在宅医療との連携>		
トータル 2	200件	23.5%
<介護施設との連携>		
特別養護老人ホームここしる	あ 25 件	2.3%
有料老人ホームサンベスト	25 件	2.3%
アシステッドリビング	20件	2.3%
特別養護老人ホー、	ムはつ	カッり
	10件	1.2%
有料老人ホームイリーゼ	30件	3.7%
小江戸の庭	10件	1.2%
小江戸の郷	10件	1.2%
グループホームふる郷川越	10件	1.2%
川越キングスガーデン	10件	1.2%
特別養護老人ホーム蔵の町	10件	1.2%
介護福祉施設ポプラの樹	10件	1.2%
花の人の家	15件	1.7%
介護老人保健施設いぶき	15件	1.7%

医療(介護)連携見込み

(※具体的に記入してください。)

【増床前】

○紹介元

【増床後】

○紹介元

グループホームふる郷川越 高齢者福祉施設すまいる小江戸 特別養護老人ホーム小江戸の庭 有料老人ホームメディス川越 特別用老人ホームはつかりの里 特別養護老人ホームキングスガーデン 特別養護老人ホームアイリス 介護付き老人ホームアズハイム川越 介護保険施設ベテラン館 有料老人ホームサニーライフ鶴ヶ島

有料老人ホームアシステッドリビング 特別養護老人ホームはつかり 小江戸の郷 特別養護老人ホーム蔵の町 介護福祉施設ポプラの樹 花の人の家 介護老人保健施設いぶき 本川越病院 武蔵野総合病院 赤心堂病院 埼玉医科大学総合医療センター 埼玉医科大学国際医療センター 埼玉医科大学病院 带津三敬病院 川越リハビリテーション病院 南古谷病院 康生会病院 山口病院 若葉病院 愛和病院 いしがみ整形外科 川越インタークリニック 猪熊胃外科腸科 紹介先 グループホームふる郷川越 高齢者福祉施設すまいる小江戸 特別養護老人ホーム小江戸の庭 有料老人ホームメディス川越 特別用老人ホームはつかりの里 特別養護老人ホームキングスガーデン 特別養護老人ホームアイリス 介護付き老人ホームアズハイム川越 介護保険施設ベテラン館 有料老人ホームサニーライフ鶴ヶ島 有料老人ホームアシステッドリビング 特別養護老人ホームはつかり 小江戸の郷 特別養護老人ホーム蔵の町 介護福祉施設ポプラの樹

花の人の家 介護老人保健施設いぶき 本川越病院 武蔵野総合病院 赤心堂病院 埼玉医科大学総合医療センター 埼玉医科大学国際医療センター 埼玉医科大学病院 带津三敬病院 川越リハビリテーション病院 南古谷病院 康生会病院 山口病院 若葉病院 愛和病院 いしがみ整形外科 川越インタークリニック 猪熊胃外科腸科

6 既存病棟の概要(※有床診療所についても既存病床がある場合は準じて記載してください。)

病棟名	病床数	病床機能報	平均在院日数	病床利用率
		告区分		
	46 床	急性期	14.0 日	98.0%
第一病棟	一般/療養	入院基本料•	特 (例) 急性期	一般入院料1
		定入院料		
病棟名	病床数	病床機能報	平均在院日数	病床利用率
		告区分		
	37 床	急性期	14.0 日	96.6%
第二病棟	一般/療養	入院基本料•	特	
		定入院料		
病棟名	病床数	病床機能報	平均在院日数	病床利用率
		告区分		
	床期		目	%
病棟 一般/療養		入院基本料•	特	
		定入院料		
病棟名	病床数	病床機能報	平均在院日数	病床利用率
		告区分		
病棟	床	期	目	%

一般/療養	入院基本料・特	
	定入院料	

診療科

内科、外科、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、整形外科 脳神経外科、泌尿器科、肛門科、リハビリテーション科、 乳腺外科、乳腺腫瘍内科、乳腺腫瘍外科、消化器外科 腫瘍内科、血管外科、形成外科、

診療実績

○手術の実施状況、

消化器外科領域 (98 件)、一般外科領域 (92 件)、血管外科領域 (39 件) 乳腺外科領域 (96 件)、泌尿器領域 (99 件)、眼科領域 (106 件) 整形外科領域 (397 件)

○急性期後の支援・在宅復帰への支援の状況、全身管理の状況、疾患に応じたリハビリテーション・早期からのリハビリテーションの実施状況など(回復期)

7 医療従事者(※確保予定の人員には、増員となる人数を記載してください。)

	現在の人員(人)			確保予定の人員(人)		
職種	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医 師	18	77	14.3	2		
看護師	77	34	21.8	20		
その他	116	27	20.7	48		
計	211	138	57.0	68		

確保状況・確保策、確保スケジュール

- ○医師の採用については2019年4月に3名の常勤医が着任しております。
- ○理学療法士などは 2019 年 4 月に 3 名着任、昨年は 4 名の理学療法士を採用。2019 年 4 月に薬剤師 1 名増員また追加で 1 名増員予定。看護師、准看護師、クラーク、作業療法士、言語聴覚士、医事課事務の採用時期は整備計画決定後に随時採用を進めていきます。

採用については、専門学校、ハローワーク、ホームページ、紹介会社、転職サイト、知り合いを通じての紹介を中心に行います。また、当院では奨学金制度の基で看護学生を育成するなど人材育成に力を注いでいます。2018年11月より保育施設を開所し、福利厚生もより充実させています。

8 医療(介護)連携における課題、問題点

○急性期医療機関:「出口」となる医療機関は充足されているか

現状、PT11 名、OT1名で業務にあたっている。平成 27 年度を基準に考えると、来室者数は 平成 30 年度で 131% と継続して増加が認められている。

当院では退院後も切れ目の無いフォローを心がけており、外来リハ、もしくは訪問リハビリにて対応している。外来リハビリにおいては約40%の患者様を退院後より継続してフォローさせて頂いており、更には訪問リハビリも立ち上げた平成27年度を基準にすると平成30年度では約13倍の年間3086件まで増加。幅広い疾患の対象者様に幅広くサービスを提供できる環境を整えている。

また、毎年定期的にリハスタッフの増員もなされており10年前と比較し3倍の人数となっている。 多数の養成校とパイプを持つことで、毎年募集人数以上の学生紹介を頂いている。

今後地域包括ケア病棟立ち上げにあたって、マンパワー確保においても問題なく実施できると確信している。

- ○回復期、慢性期医療機関:市町村、ケアマネージャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズに行われているか 等
- 1、ソーシャルワーカーが中心となり地域との協力体制を構築し、各協力機関への移行をスムーズに行っています。

現在、連携室の体制の充実をはかるために、同じフロアーにソーシャルワーカーチーム、(ソーシャルワーカー3名、入退院支援専従看護師 1名、専従事務担当者 2名)居宅支援事業所チーム(ケアマネージャー3名)、訪問看護チーム(正看護師 5名、専従事務担当者 1名)の機能を集約し幅広く情報の共有化をはかっています。特に入退院支援専従ナースは他施設との連携に重要な働きを行っています。また、5月 1日より様々な患者様へのサポートを充実させるために専用相談窓口を平日 9:00 から 19:00 (土曜曜日は $9:00\sim17:00$ 、日曜祝祭日は休み)に開設しています。